

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長 殿

郵便番号 〒100-0011  
 住 所 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号  
 氏 名 JFEスチール株式会社  
 代表取締役社長 林田 英治  
 (代理人)専務執行役員 所長 小俣 一夫 印  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEスチール株式会社			
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区扇島1番地1号			
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者			
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者			
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)			
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業	
	中分類	22	鉄鋼業	
主たる事業 の内容	高炉による製鉄業			
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		本数値情報は経営上の秘匿情報である。また、弊社他事業所における本数値情報を含む省エネ定期報告の不開示決定に関する情報公開訴訟において、国が係争中でもあるため記載・開示できません。	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数			台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出の量			363,835 t - CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	エネルギー部エネルギー技術室	
		所在地	川崎市川崎区扇島1番地1号	
		電話番号	044-322-1601	
		FAX番号	044-322-1539	
		メールアドレス		

受付欄	特記事項	事業者番号	

## (第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	詳細は、指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	詳細は、指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	詳細は、指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	JFEスチールは日本鉄鋼連盟の自主行動計画に基づき、 ・高効率モーター導入による電力使用量削減 ・高効率空気圧縮機更新による電力使用量削減等、目標達成に向けて活動中です。 詳細は、指針様式第1号(第4,5面)のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	・低CO2焼結製造プロセス「Super-SINTER」は平成21年度低CO2川崎パイロットブランドに選定され、他の工場へ展開中 詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	・高効率電磁鋼板・自動車用高張力鋼板による軽量化でCO2排出削減貢献 ・マリブロック(鉄鋼副産物利用拡大)による海の環境保全に貢献 ・使用済みプラ原料化によるリサイクル社会への貢献 ・国家プロジェクト(フェロコークス)パイロットプラントを主体的に推進 詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています <a href="http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/globalwarming..html">http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/globalwarming..html</a>

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 のある欄は、該当する 内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 印の欄は記入しないでください。

5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

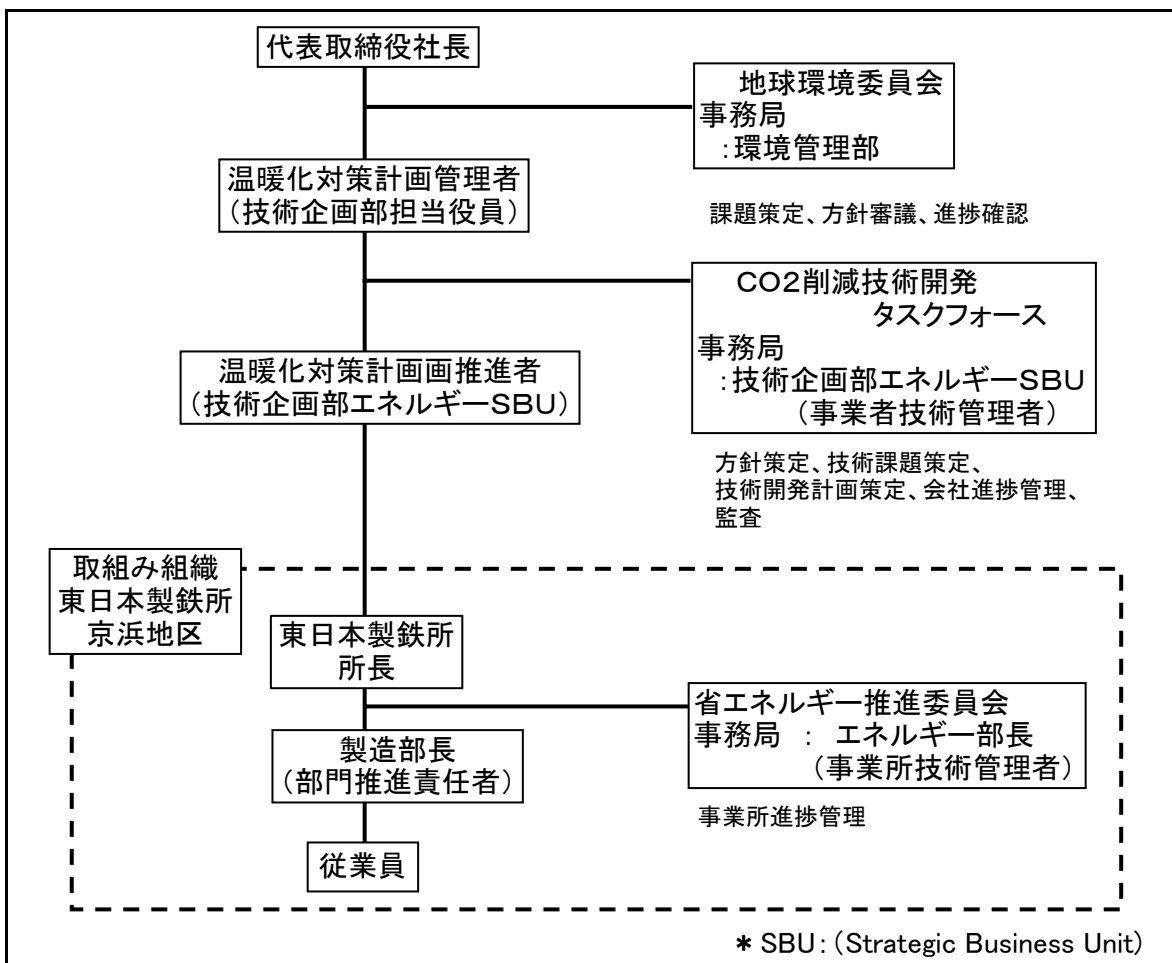
### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

JFEグループは自らの省エネルギー活動と技術開発により、すでに世界最高水準にあるエネルギー効率のさらなる向上を目指すとともに、「環境調和型製鉄プロセス技術開発 (COUSE50)」プロジェクトへの参画など、さらに抜本的なCO2削減技術の開発に取り組んでいます。また環境調和型の商品・技術の提供による環境負荷低減などの活動をより一層推進することなどを通じて地球環境を守る重要な役割の一端を担っております。

JFEスチールの具体的な取組みは、

1. 日本鉄鋼連盟の自主行動計画の確実な遂行  
(日本鉄鋼連盟の自主行動計画 : エネルギー消費量を2008年度～2012年度平均で1990年度比10%削減)
2. 省エネルギー・CO2削減のための最新プロセスの最大限導入
3. 社会のCO2削減に貢献する高機能鋼材のさらなる開発・普及
4. 将来を見据えた「フェロコークス」などの革新的な技術開発
5. 1,000億円のCO2排出削減投資の実施  
(CDQ新設・倉敷地区、高効率酸素設備・倉敷地区、高炉熱風炉省エネ化・福山倉敷)
6. 循環型社会を支えるリサイクル技術・事業の展開

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 ( 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等 )

( 1 ) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基 準 年 度	平成 21 年度	目 標 年 度	平成 24 年度
基 準 排 出 量	( 実 ) 9,379,567 t-CO <sub>2</sub> ( 調 ) * * * * *	目 標 排 出 量	( 実 ) 10,100,760 t-CO <sub>2</sub> ( 調 )
削 減 率	( 実 ) -7.7 % ( 調 )	削 減 量	( 実 ) -721,193 t-CO <sub>2</sub> ( 調 )

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原 単 位 の 活 動 量	粗鋼量	単 位	t-CO <sub>2</sub> /t-s
基 準 年 度 の 値	2.051	目 標 年 度 の 値	1.906
削 減 率	7.1 %		
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

目標設定につきましては、平成20年度、平成21年度で著しい生産変動が生じた為基準排出量及び基準原単位を平成19年度の値といたします

JFEスチールは日本鉄鋼連盟の自主行動計画に基づき、省エネルギー活動を過去から継続的に実施してきており、「2008年度～2012年度平均でエネルギー消費量を1990年度比10%削減」の目標達成に向け、現在も継続中です。粗鋼生産1t当たりのCO<sub>2</sub>排出量(原単位)は2009年度が1990年度比21%の削減を達成しております。今後も各種活動を展開して原単位低減を図っていきます。

目標年度の平成24年度は、原単位で7.1%削減を目標に設備投資等活動を展開していきます。目標年度排出量については、国内外市場ニーズに従った生産量増加で、CO<sub>2</sub>排出量は増加が推定されます。

( 2 ) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 ( 全社目標 )

## 5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

## ( 1 ) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る 温室効果ガスの 排出の量の削減 を達成するた めの具体的措 置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、 第 4 号該当者等)</p>	<p>JFEスチールは日本鉄鋼連盟の自主行動計画に基づき、省エネルギー活動を過去から継続的に実施しており、「2008年度～2012年度平均でエネルギー消費量を1990年度比10%削減」の目標達成に向け、現在も継続中です。</p> <p>2010年度は</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高効率モーター導入による電力使用量削減</li><li>・高効率空気圧縮機更新による電力使用量削減</li><li>・原料水分低減化による高炉コークス使用量削減</li><li>・発電所冷海水取水による発電効率改善</li></ul> <p>など、目標達成に着実に取り組んでまいります。</p>
<p>自動車に係る温 室効果ガスの排 出の量の削減を 達成するための 具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者 等)</p>	

( 2 ) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

計画なし
------

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

( 3 ) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高炉 1 基停止 1 基稼働体制(設備集約)による効率的操業</li> <li>・高炉使用済みプラスチック吹込みによる原料炭使用削減</li> <li>・厚板加熱炉リジェネレーター適用による省エネルギーの進展(NEDO)</li> <li>・転炉脱燐処理中の排ガス回収による省エネルギーの進展(NEDO)</li> <li>・動力回収タービン新設による省エネルギーの進展(NEDO)</li> <li>・化工工場硫酸設備での安水廃熱回収による省蒸気の進展(NEDO)</li> <li>・余剰安水処理設備の減圧蒸留化による省蒸気の進展(NEDO)</li> <li>・高炉都市ガス吹込み操業による原料炭使用削減</li> <li>・シャフト炉新設による原料炭使用削減</li> <li>・焼結工場「Super-SINTER」技術による原料炭使用削減</li> <li>・容器包装プラスチック微粉化による省エネルギーの進展(NEDO)</li> </ul> <p>*NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構よりの助成事業)</p>
--

## 6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

- (1) 低CO<sub>2</sub>川崎パイロットブランドの選定  
2009年度「Super-SINTER」(低CO<sub>2</sub>焼結製造プロセス技術)選定  
西日本製鉄所(倉敷地区)にて導入中 効果:原油換算4,300kLの省エネ効果  
東日本製鉄所(千葉地区)、西日本製鉄所(福山地区) 導入決定  
フィリピン・シンター社(比)へ展開予定

## 7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- (1) 優れた鉄鋼製品によるCO<sub>2</sub>削減への貢献  
・高機能電磁鋼板によるHV小型軽量化・高効率化でCO<sub>2</sub>削減へ貢献  
・自動車用超高張力鋼板(NANOハイテン)で自動車部品軽量化による燃費向上への貢献  
・高耐震性高強度鋼
- (2) 革新的技術開発によるCO<sub>2</sub>削減への貢献  
・鉄鋼副産物を用いたヒートアイランド現象抑止舗装用保水材「ロードクール」の開発  
・鉄鋼副産物を用いた珊瑚造成礁「マリンプロック®」による海の環境保全に貢献  
・鋼管杭を利用した地中熱利用空調システム技術によるヒートアイランド対策
- (3) リサイクル技術による循環型社会への更新  
・使用済みプラスチック高炉吹込み  
・使用済みペットボトルの再資源化  
・使用済み家電製品の再資源化  
・使用済みプラスチックの商品化  
・塩化ビニールリサイクルによる再資源化  
・蛍光灯リサイクル工場設置による蛍光灯リサイクル推進
- (4) 国家プロジェクトへの参画  
環境調和型製鉄プロセス技術開発「COURSE50」プロジェクト参画  
フェロコークス製造パイロットプラント建設を主体的に推進

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

( 1 ) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	8,264,342	t-CO <sub>2</sub>
(調)	* * * * *	

イ 第 3 号該当者等

		t-CO <sub>2</sub>
--	--	-------------------

( 2 ) 事業所等单位 ( 第 1 号、第 2 号該当者等 )

ア 年間の原油換算I礼<sup>レ</sup>-使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製鉄所 ( 京浜地区 )	川崎市川崎区扇島1番地1号	2311	高炉による製鉄業	8,264,342 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算I礼<sup>レ</sup>-使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算I礼<sup>レ</sup>-使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400 ~ 500kl 未満	0
300 ~ 400kl 未満	0
200 ~ 300kl 未満	0
100 ~ 200kl 未満	0
100kl 未満	0

( 3 ) 事業所等单位 ( 第 4 号該当者等 )

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 ( 二酸化炭素換算 ) が 3,000 t 以上 ( 二酸化炭素の場合はI礼<sup>レ</sup>-使用に伴い排出したものを除く。 ) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製鉄所 ( 京浜地区 )	川崎市川崎区扇島1番地1号	2311	高炉による製鉄業	8,264,342 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 ( 二酸化炭素換算 ) が 3,000 t 未満 ( 二酸化炭素の場合はI礼<sup>レ</sup>-使用に伴い排出したものを除く。 ) の事業所の数

事業所数	0
------	---